



かなざきひさを応援する会・会報 40号 事務局 上山口 1878-9 Tel&Fax 878-7961 携帯 090-4076-2425
 E-Mail kanazakihi@jcom.home.ne.jp
 URL <http://members2.jcom.home.ne.jp/kanazakihi/>

葉山町議会第2回定例会が開催されました。 期日 平成22年6月9日～6月21日

○ 「ごみの発生抑制、減量化、資源化を進める施策として『葉山町ゼロ・ウェイスト計画』の実施とその実施宣言を求める陳情」が不採択となりました。

平成20年第4回定例会から、ごみ問題特別委員会で継続審査となっております。今議会中の特別委員会で一旦、採択すべきという結論が出されましたが、その後の本会議での全議員による採決の結果、賛成少数で不採択となりました。

町としてのごみ処理の将来像が示されていない状況で、町民にのみ減量化をお願いしつつゼロを目指すという計画とその実施宣言を行うのは時期尚早との意見が大半を占めました。かなざきひさはごみ問題特別委員長として「採択すべき」との委員会報告を行いました。採決では反対をいたしました。

ご存知ですか

請願・陳情の採決の仕方

例えば「ごみの発生抑制、減量化、資源化を進める施策として『葉山町ゼロ・ウェイスト計画』の実施とその実施宣言を求める陳情」は

- ・ 議会運営委員会でごみ問題特別委員会へ付託すると決定されました。
- ・ ごみ問題特別委員会（委員長・かなざきひさ、委員・加藤、鈴木知、伊東、山梨、森、畑中、近藤各議員）で審査し、賛否をとります。この際、委員長は採決には加わりません。

賛成・山梨、森、畑中、近藤各議員
 反対・加藤、鈴木知、伊東各議員

- ・ 賛成多数で特別委員会では採択すべきとの結論になりました。
- ・ 後日、本会議において、委員長が委員会の結論を報告し、全議員による採決が行われました。

賛成・山梨、土佐、森、畑中、近藤、阿部各議員
 反対・加藤、鈴木知、伊東、中村、笠原、佐野、かなざきひさ、待寺、伊藤、守屋各議員
 議長は採決には加わりません。

- ・ 結果、委員会では採択となった陳情が議会の結論としては不採択となりました。

○かなざきひさの一般質問

(1) 葉山町ごみ処理基本計画（案）について

この計画案は、5月17日にごみ問題特別委員会に示され、その後、パブリックコメントを経て、10月頃に策定予定です。問題が山積した案であり、町長の方針では、案の状態での住民説明会は行わないとのこと。町民の協力なくしては為し得ない計画となっておりますので、十分な説明をいただきたく、質問に取り上げました。

質問と提案	理事者側の答弁
計画改定の趣旨に、「循環型社会の実現に向けた持続可能なごみ処理を町みずから選択する決意を示した」とある。持続可能なごみ処理のための施策は。	短期間で終わるようなことではなく、長い目でみたごみ処理計画という意味あいを持たせている。 (生活環境部長)
町はどのようなごみ処理を行うのかを伺っている。	資源化、減量化をすることを基本に、町民、事業者、行政が一丸となって取り組む。 (生活環境部長)

質問と提案	理事者側の答弁
町民のみが持続してごみを半減化する施策としか思えない。集めたごみの処理をいかにするのか、町としてのごみ処理に関する将来像は。	完全にゼロにはならないので、その焼却は行っていく。 (町長)
老朽化した焼却炉しかない状況での将来展望は。	焼却炉は修理を重ねながら使っていき、完全に使えなくなった時に、対応を考えることになると思う。 (町長)
2 炉の焼却炉の修理に年間 1 億円かけている。ごみが半減して 1 炉のみの使用となった時、修理費は半減するのか。	6~7 割位の修繕費はかかると思う。 (生活環境部長)
ごみ量の 2 割を占める事業系ごみの排出責任について。	受け入れ費用が他と比べて安いので、その改定を含めて減量化をお願いしていく。 (町長)
焼却炉が危うい状態で、焼却料の値上げでの対応はおかしい。事業系ごみの性状は 7 割が生ごみであり、未開封食品も含まれている。排出者責任として自家処理させるべきではないか。	産業廃棄物としての扱いとし、町での処理は行わないということも考えている。 (生活環境部長)
事業者との話し合いは。	商工会、スーパー等の代表者とも話をしてみたい。 (生活環境部長)
町民に生ごみの自家処理をお願いする以上、町関連施設から出る生ごみをゼロにする方策と達成年度を明示すべきである。	達成年度を申し上げるのは難しい。学校給食残渣については今年中に教育委員会と話を進めたい。 (生活環境部長)
これは教育委員会の問題ではない。生ごみを処理する方策を立てて、協力を仰ぐべきことではないか。	各学校内で処理ができるよう、その方向性を探っていきたい。 (町長)
給食から出る生ごみをゼロにするアイデアが教育長にあったら、町長に提案をして欲しい。	1 日に 80 ㌦の生ごみが出るので「キエーロ」では 120 台が必要となり不可能である。短期間でゼロに近づけるのは非常に難しい。 (教育長)
ごみ量を半減して 2 炉を 1 炉にし、焼却処理費の削減をするとのことだが、ごみ量が半減しなかったら減額にならないのではないか。	そういうことにならないように、町民に説明をして協力をお願いしたい。 (生活環境部長)
人件費は 3 億円かかっており、それ以外にも収集委託費のほとんどが人件費である。50 人の町職員で全ての収集はできないのか。	現在の人数では難しい。全ての収集を町職員で行うと増員しなければならず、それよりも委託費の見直しを行いかなりな減額に励んだ。 (生活環境部長)
来年度からの戸別収集は増員なしでできるのか。	現在の人員で対応できる。 (生活環境部長)
平成 26 年に人件費を 2 億 4,700 万円に見込んでいるが、人員減をするのか。	ごみ量が減ると人員も削減できると考えている。(町長)
ごみ量が減っても、世帯数は減らない。戸別収集をするなら人員の削減は難しいのではないか。	収集に関しては今の人数が必要であるが、ごみ量が減り、1 炉になれば、それにかかわる人員を減らすことができる。 (生活環境部長)
戸別収集に関し、カラス対策と狭隘道路の対策は。	モデル地区での取り組みを通して、検証と対策を開始している。 (町長)
集団回収の充実について。	資源物回収として行い、協力団体に補助金等の充実などを検討しているので、現在より良いものになると思う。 (生活環境部長)
平成 18 年を基準値としているが、今年度作成される基本計画なので、直近の 20 年度決算の数値を基準値とすべきと思うが。	ゼロ・ウェイスト計画は 20 年 6 月にスタートさせており、その直近のデータが 18 年度であったから基準値にした。 (町長)
指定ごみ袋の導入について、紙おむつの対応は。	福祉施策として袋を配布したい。 (生活環境部長)
植木剪定枝は資源物として収集するのか。	資源物の扱いとする。 (生活環境部長)
「災害時のごみ処理対策について、周辺自治体との連携を整える」とあるが、広域離脱により裁判にもなっており、どのような話し合いのもとに明文化したのか。また、「町として他自治体に支援を行うべく体制を整える」とあるが、どのような体制を整えるのか。	平成 7 年 8 月に「横須賀・三浦地区における一般廃棄物の処理に関する災害時等相互援助協定書」が締結されており、それに基づき、体制を整えたい。 (町長)
かなざきひさの考え ごみ処理基本計画案の中身は町の行うべき計画が示されていません。ただ、町民の努力に期待し、ごみを極力出さないことにより、ごみを半減化しごみ処理費の削減を行おうとしています。出されたごみをどのように処理していくのかを示すのが計画だと思います。どのような角度で質問をしても町長の考えている将来像が見えません。成り行きではごみ行政は解決しないと思います。	

